

矢内 この間、ある取材で、スタッフの方たちと一緒に忍城址や水城公園などで、あれこれ回りましたが、「ひとつの市の中で、これだけ見て回る場所が多いところはなかなかないですね」と話していました。もともと、取材スタッフが考えていた場所がいくつかあって、それにプラスして私が「ここも行きましょよ、あそこも行きましょよ」というような感じで連れて行きました。そうしたら、「こういうところもあるんですね」と、非常に興味深そうに見ていました。

また、職業柄足袋を履くことが多いことから、私自身興味があったので、「足袋とくらしの博物館」にも足を運びました。



市長 足袋を作っているところをご覧になりましたか。

矢内 はい。地元にながら、こうした施設があったのを初めて知りました。

市長 古代蓮の里東側の「田んぼアート」はご覧になりましたか。今年はず付面積を昨年の倍以上にしようと思っております。行田ほど高い建物から俯瞰できる



ところは、ほかにはないようなので、地の利を生かして日本一の「田んぼアート」にしたいと考えています。

矢内 それはいいですね。古代蓮の里を訪れる方も、その景色に圧倒されそうですね。

市長 古代蓮の里を蓮の時期だけではなくて、一年を通して大勢の方に来てもらうと思っています。今考えているのは、春に芝桜で蓮の絵が描けないかと、古代蓮タワーをクリスマスツリーに見立ててイルミネーションで飾れば、日本一のクリスマスツリーになるんじゃないかな。そういう工夫というか、もっとポジティブに発想してもらいたいと職員には話しています。

矢内 行田ならではの名物がどんどん増えていくと、観光に来る方も楽しみが増えていいですね。

名刺で広がる行田の話題

市長 矢内さんは行田市の初代観光大使として活躍されていますが、これまでを振り返ってみていかがですか。

矢内 観光大使になってから、仕事で全国あちこちへ行くたびに、いろいろな人に名刺を渡してきました。名刺には行田の見どころや名物が写真で紹介されているのですが、必ず皆さん、興味深くじっと見られますよ。「あの、まだ話しているのに…」という状態で、「へえー」って言って、見入っていらっちゃって…。やっぱり、ゼリーフライが一番、疑問を持たれますね(笑)。

「ゼリーが入っているんですか」って聞かれて、そこから、「いえいえ、そうじゃなくて」って説明して、話がどんどん



ん広がっていきます。フライは、ほかの地域にも似たような食べ物がありますが、ゼリーフライは本当に行田ならではの珍しい食べ物ですね。

市長 初めてゼリーフライの名前を聞く人は、先入観を持ってしまいうので、説明するのは大変ですね。

矢内 先ほど名刺の話をしましたけど、今は2種類の名刺を使用しています。風景のものとお祭りのものです。同じ場所でも同じ名刺を配るのはもったいないので、別々に配っていると、「もう一種類あるんですか。ください」と言われます(笑)。

市長 観光大使として、一生懸命行田のPRをしていただいているんですね。非常にありがたいかと思っています。

皆さんとともに 元氣な行田のまちづくりを

矢内 最近は大々さんの方が行田市を訪れています。休日にさきたま古墳公園へ行っても、本当にたくさんの方が集まっています。とてもいい流れになっていると思います。もっとまちが活性化して、元気な行田になってほしいと思っています。

市長 ありがとうございます。

私が市長に就任する直前の平成19年3月末現在で、市の借金は500億円を超えていました。そのため、財政再建を私